

3 サンフランシスコの霧

今回の研修旅行は全行程、天気恵まれた。夏らしいカラッとした空気、抜けるような大空を満喫できた。唯一、寒さに驚いた都市がサンフランシスコであった。まるでクーラーの利いた部屋にいるかのように寒い空気だった。寒流が港を洗い、その上を冷たい霧や空気が流れる。金門橋の壮大なつり橋の姿に見とれる一方、湾口を流れる冷気には正直驚いた。サンフランシスコといえば、あの咸臨丸や明治の欧米使節団の立ち寄った最初のアメリカの都市である。サムライや明治の元勳たちがこの町の港に降り立ち、宿の周辺を歩き回ったと想像しただけでも面白い。太平洋を船で渡り、最初にアメリカ大陸に到達したかつての日本人たちもこの霧や寒さには驚いたことだろう。

サンフランシスコは景観が面白い。地形的にも山がちな土地の上にビルも林立しているせいで、高さがその分増して余計に丘や山の上に聳え立つビル群が目立つ。ケーブルカーはそうした落差による移動の困難さを解消するために敷設された。ケーブルカーの博物館兼操車場に行ってみたが、それにしても近代化の遺産ともいえるケーブルカーをほとんど昔と同じシステムで運行しつづける当地の観光への姿勢と市民の近代史に対する愛着の深さを感じ入ることができた。

この町では、このほか2日目に立ち寄ったUCLAバークレイ校のキャンパスの大きさと蔵書の多さ、熱気の塊ともいえるチャイナタウン、ピアという波止場に集まる観光客の多さが印象的であった。ユニオンスクエアと呼ばれる都心も2度訪れた。有名デパートの裏に日本料理店や中華料理店などアジアの食が数箇所目についた。同行の宮原氏の紹介で夕食を食べた日本料理店は安価で味もよかった。ミネソタとは異なり、アジア人やアジア文化と出会う頻度が格段と増えたようにも思われた。西海岸は移民のふるさとでもある。日本やアジアの雰囲気色が濃く反映するエリアがあってもおかしくはない。決してマイノリティとも言えないくらい日本やアジア人のパワーが感じられる都市であった。

4 奇岩奇勝雄大な西海岸ドライブ



今回の研修旅行で個人的に楽しみにしていたルートが、これである。サンフランシスコからロサンゼルスまでの約500キロの道のりをバスで移動したのである。車窓に展開する景色はいずれも第一級の奇岩奇勝の連続であった。しかも日本の海岸美よりもややスケールが大きい。ほとんど人工物が少ないせいで自然の風景が楽しめる。カンブリアという古生代の地質名称にも由来する地名があるようにいたるところにビューポイントがある。まさにドライブの愉しみが満喫できる

コースだ。途中の豪華別荘の数々を横目に見ながら、一路南下していったが、新聞王ハーストキャッスルには唖然とした。乾燥した丘の頂上に豪華絢爛の宮殿が建っている。贅沢の限りをつくしたハーストの生き方はそのままアメリカンドリームそのものといってもいいかもしれない。訪れるアメリカ人もびっくり仰天の表情をしていたが、いかにもアメリカらしい観光地とも言える。

ロスに近づくうちに砂浜に多くのキャンピングカーが止まっていた。週末をこうして楽しんでいるのだろう。うらやましい限りである。それにしても美しい砂浜海岸が何キロにもわたって続く風景に海国日本の海岸線の貧しさに気づいた。日本の海岸から自然海岸が